

第 86 回がん対策推進協議会	参考資料
令和 4 年 11 月 30 日	6

がんと働く いま企業内で 起きていること

がん対策推進協議会委員 阿久津友紀

協力

公益財団法人日本対がん協会 がんサバイバークラブ

一般社団法人 がんと働く応援団

はじめに

現状

- 「がんと就労」に関する課題は、第2期がん対策推進基本計画（平成24年6月）（※1）に「がん患者の就労を含めた社会的な問題」への対策が盛り込まれて以降、第3期がん対策推進基本計画（※2）では「がんと共生」という新たな柱のもと「就労支援」という一層の支援強化が施策として成立、実行されている。患者体験調査（平成30年）（※3）からは、8割が継続就労をしているという結果も報告され、がん罹患者を取り巻く社会環境は大きく改善傾向と言える。

改善傾向の中にも、懸念される課題はないか？

- 様々な支援策はどれだけ必要な層に届き、活用されているのか
- 一度病気を理由に退職した層のその後のキャリアはどうなっているのか
- 継続就労している層から学ぶ環境改善ポイントはなにか

緊急リサーチ

- 懸念事項を把握するために、緊急のアンケート調査を実施。
- リソースの限られたアンケート調査であり、実態の把握にはより精度の高い専門的な調査が必要と考えるものの、「今」起きていることの一部をご理解いただくための資料として、7日間という短期間で753名のがん罹患者の声が集まったという事実も含めて、確認いただきたい。

アンケート調査結果と考察

本調査は、6日間という短期間、かつ、インターネットに限定した「緊急アンケート調査」であった。そのため、ネット環境にない層の回答の反映には至らず、30－40代女性、乳がん罹患者の回答割合が大きい等の偏りがみられる。大まかな傾向を図るものとしてとらえていただきたい。

浮かび上がった懸念点

- 1** ▶ **派遣・契約社員**における「退職比率」、および、「不安定な就労形態へ移行した比率」が高い傾向。
- 2** ▶ 40－50代の女性の非正規比率の高さを考えると**女性の就労継続に有意に困難が生じていることが示唆される**。心理面でも「きわめて苦労した」層はここに多い。
- 3** ▶ 「就労継続に極めて苦労した」と回答した層は、「苦労がなかった」と回想した層に比べ、社内制度利用上の困難に加え、**上司を含めた周囲との人間関係で苦労している割合も顕著に高い**。社内での**がんに対する正しい知識、両立に対する理解の企業間格差**が、そのまま個々の患者の就労継続の妨げになっている可能性を示唆していないか。
- 4** ▶ 社内支援を得づらいがん罹患者は、**外部の各種相談窓口にも十分たどり着けていないことがうかがえる**（「就労継続にきわめて苦労した人」のうち約6割弱が相談窓口を利用せず）。医療機関・医療従事者からがん罹患者へのアプローチは多々用意され、試行されているものの、**必要としている情報を適切なタイミングで見つけられる案内に至っていない可能性**を示唆していないか。

がん罹患者一人一人が自身の持てる力を発揮して就労を続けられる社会の構築には、**なお一層の企業の制度・風土づくり、いざという時の支援窓口へのロードマップ整備など、組織の枠組みを超えたアプローチがより重要**になってくる

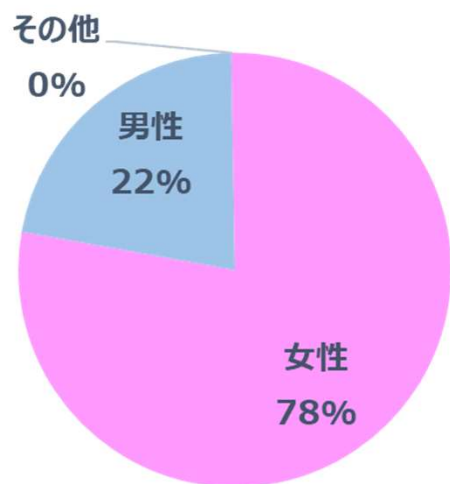
「就労支援」に関する緊急アンケート調査

公益財団法人日本対がん協会 がんサバイバー・クラブ
「サバイバーネット」に登録された患者、患者団体などによる
スノーボール方式

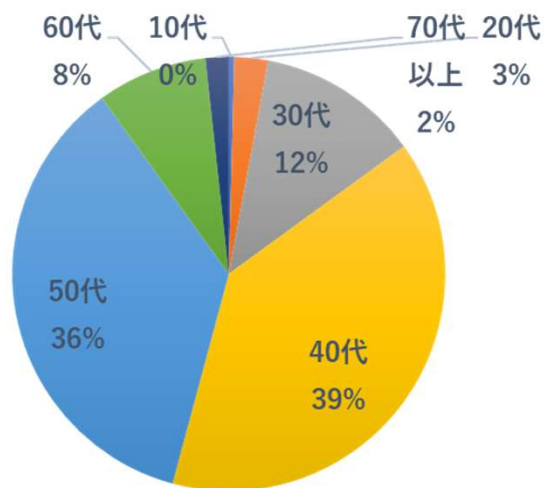
がん罹患者、男女：753人
調査期間：2022年10月19日～25日

- 本調査へのご回答では、女性が8割、罹り患時の年齢は40 - 50代が75%、診断時就労していた人は85%であった

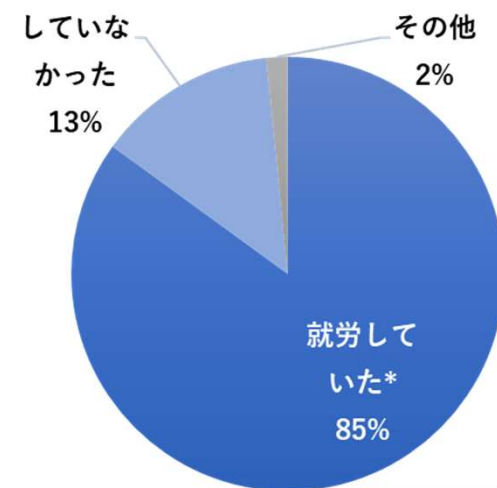
性別



罹患時の年齢



罹患時の就労状況



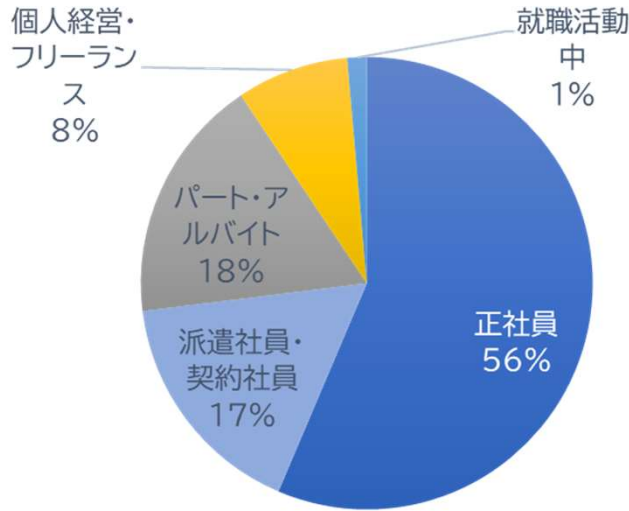
	就労していた*
女性	84%
男性	88%

*「就労していた」には就労意向のあったもの、休職中だったものも含む

就労形態の変化

- 本アンケート調査では、正社員は約8割がそのまま正社員として継続就労された。一方で派遣・契約社員のうち同等以上の安定した就労形態を維持しているのは約6割であり、正社員と比べ低い。
- 退職やより不安定な就労形態に移行した人は、派遣・契約社員だった人では25%、アルバイトでは26%。
(2021年労働力調査 ※1) では、40代50代の女性の非正規比率が56%)

がんと診断されたときの就労形態



対象：がんと診断されたとき就労していたと回答した人639人

現在との就労形態の変化

		現在の就労形態					
		正社員	派遣社員・契約社員	パート・アルバイト	退職	個人経営・フリーランス	その他
がんと診断されたときの就労形態	(参考)合計	48%	11%	16%	13%	7%	6%
	正社員	78%	3%	5%	8%	2%	4%
	派遣社員・契約社員	11%	48%	9%	14%	2%	16%
	パート・アルバイト	1%	4%	61%	26%	0%	8%
	個人経営・フリーランス	10%	4%	2%	10%	63%	12%
	就職活動中	11%	11%	22%	11%	0%	44%

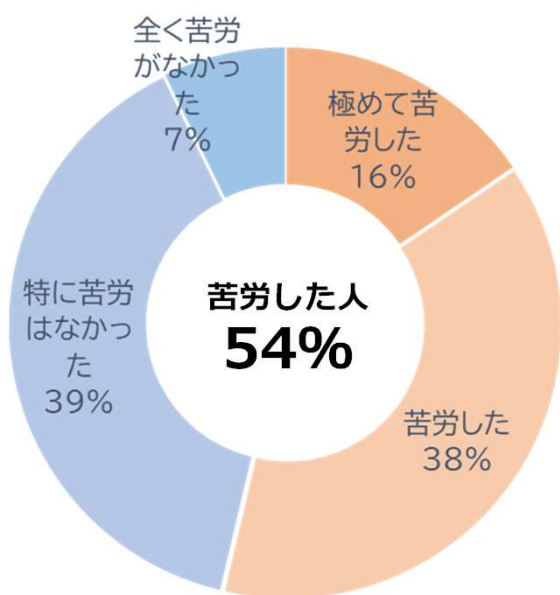
就労には休職も含む

個人経営・フリーランスと就職活動中の数字は、N数が少ないため、参考値

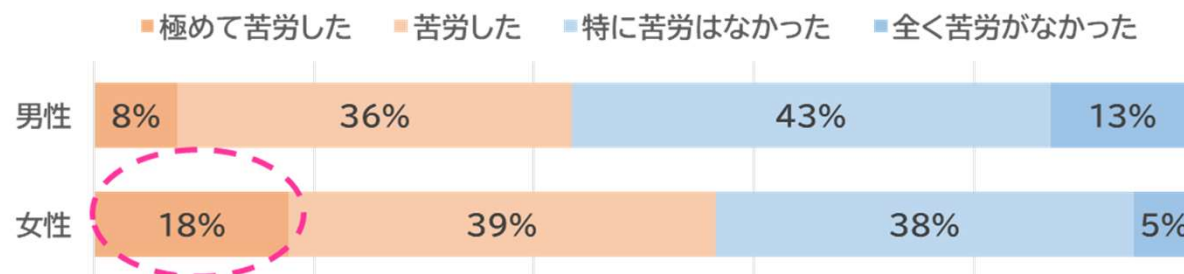
両立の上での苦勞

- 仕事上の苦勞をした人は全体の5割近く。
- **きわめて苦勞したと答えたのは女性が多く、また非正規雇用の派遣・契約社員が多い。** 個人経営は全般的に苦勞されている割合が高い。

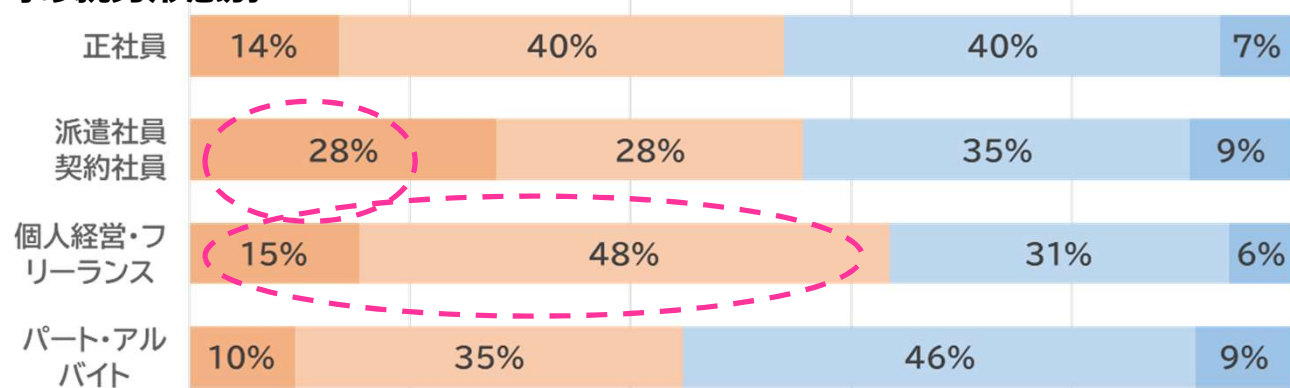
仕事との両立にあたり職場環境や仕事上の苦勞はありましたか？



男女別



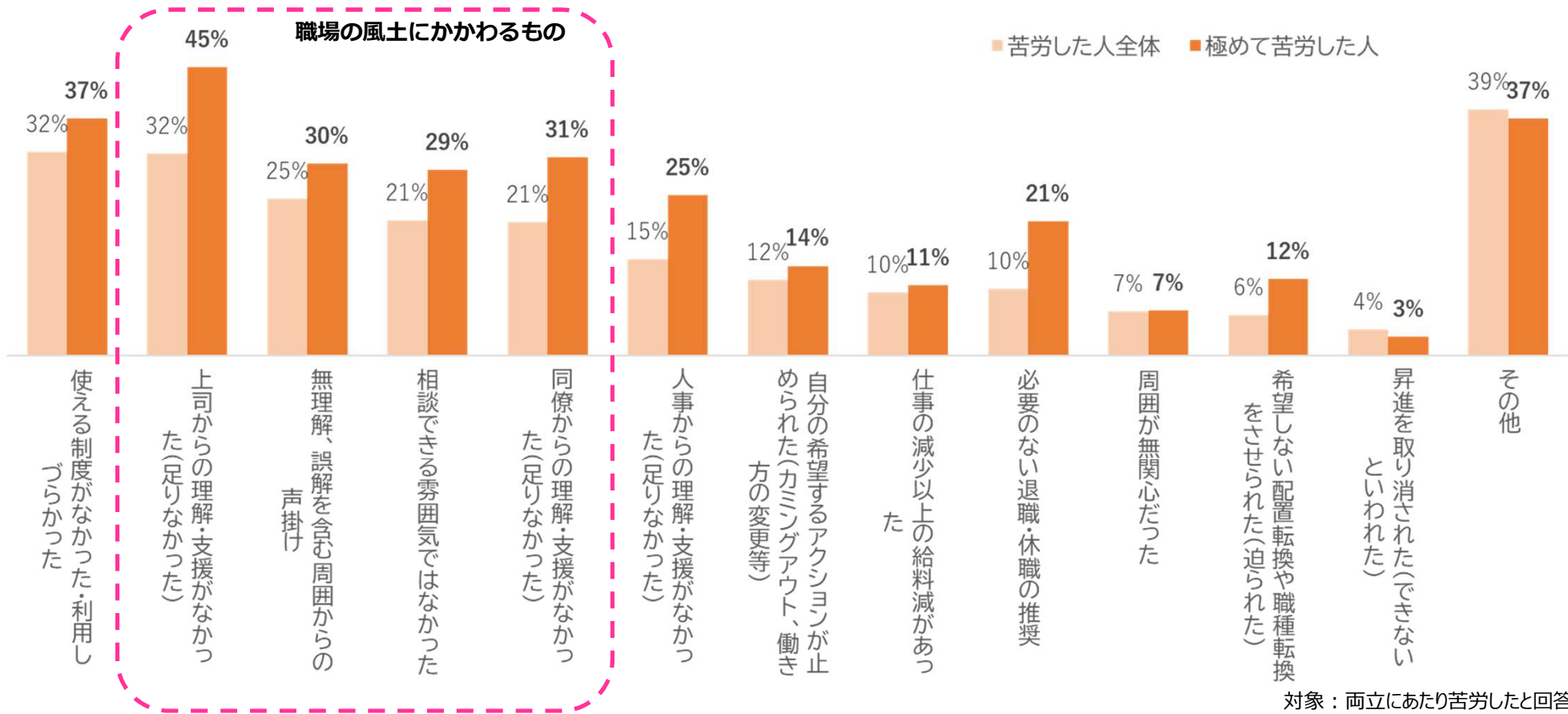
診断時の就労形態別



対象：がんと診断されたとき就労していたと回答した人639人

両立の上での苦勞（苦勞した方のみ）

- 両立に苦勞した人は、制度が使えなかったり、**上司の理解**が得られていない。**退職勧奨も1割と根強い。**
- きわめて苦勞した方は上司だけでなく、周囲の理解など**職場全体から理解されず**苦勞されており職場環境の要素が大きい。

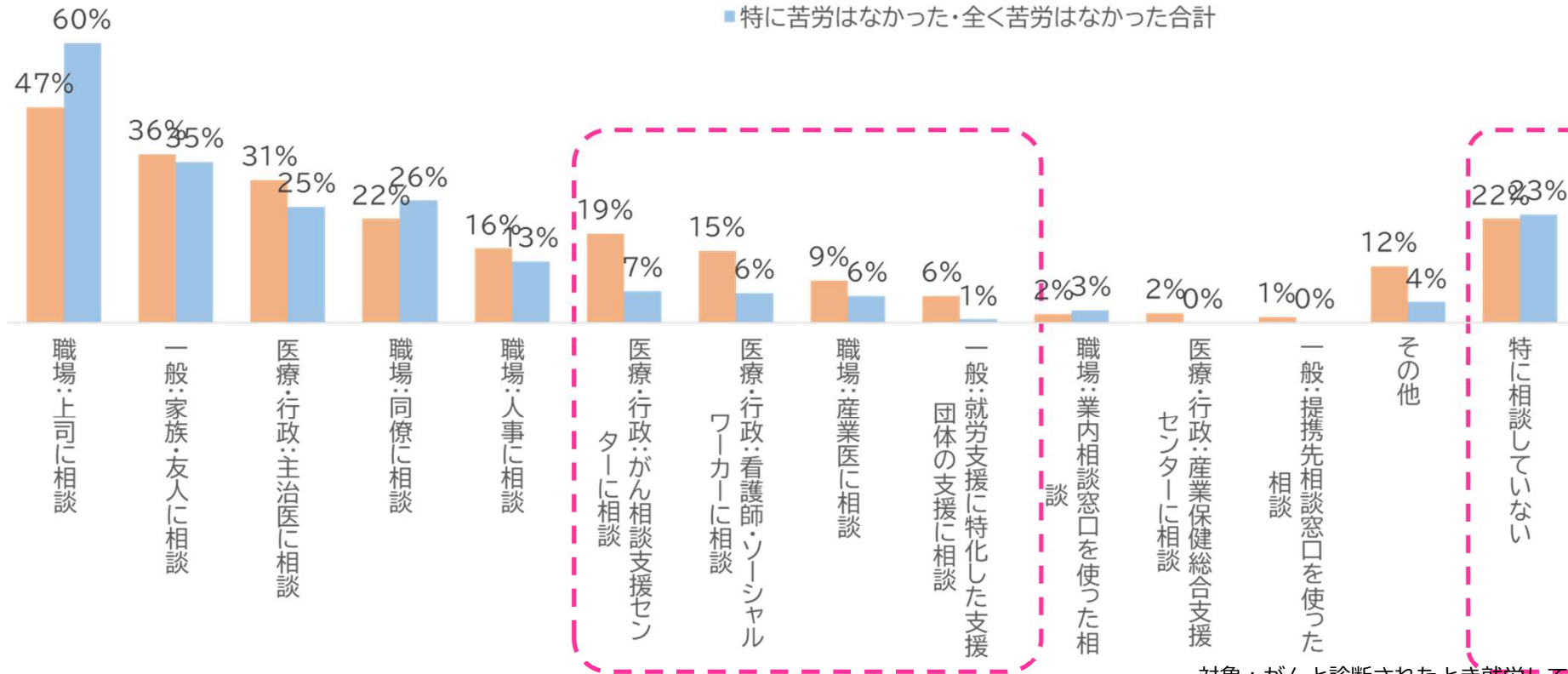


両立の際の相談先

- 何等か苦勞された方は支援センター・支援団体など外部への相談をしている割合が苦勞していない人に比べて高いが、それでも利用率は2割以下。社内にも誰にも相談できていない方も20%以上もいる。
- 一方で苦勞しなかった人は上司への相談が60%。**上司の理解が果たす役割が大変重要**であることがわかった。

治療と仕事の両立のために使った支援策

■ 苦勞した・極めて苦勞した合計
■ 特に苦勞はなかった・全く苦勞はなかった合計

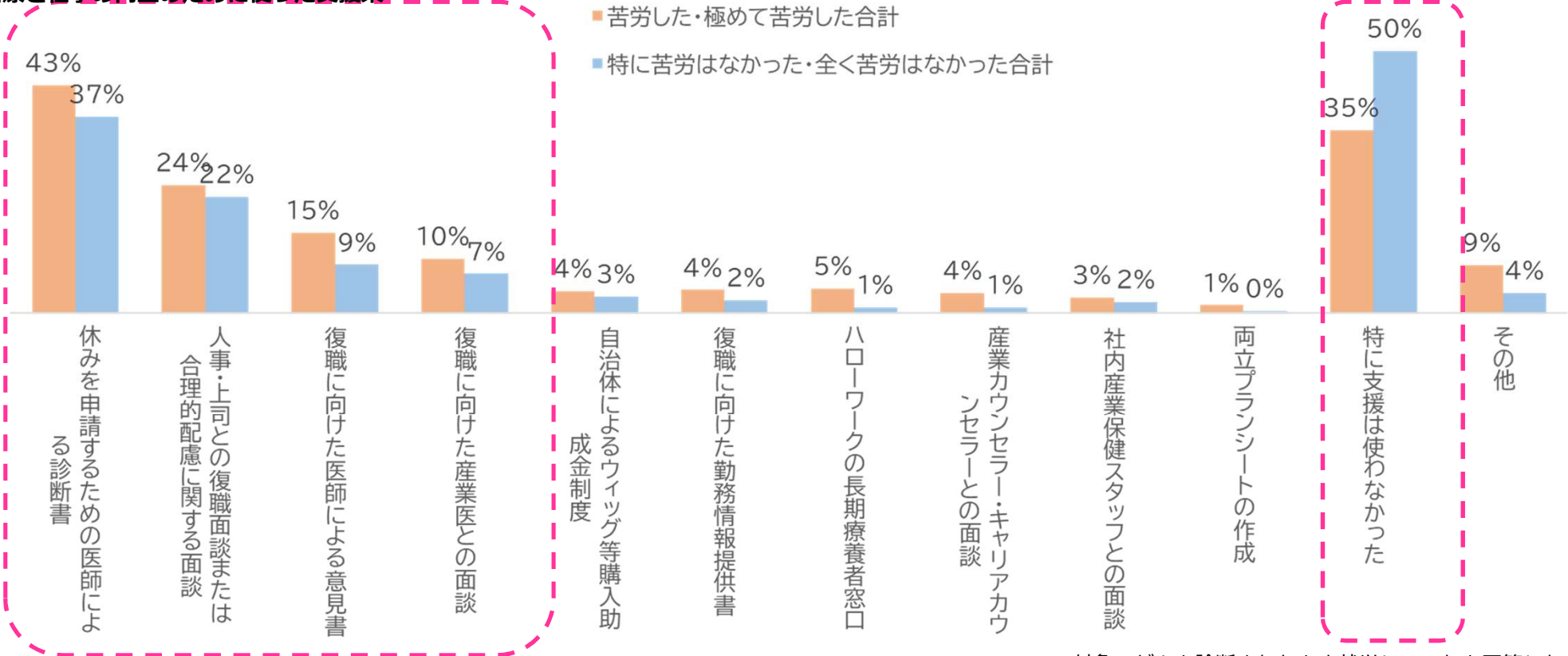


対象：がんと診断されたとき就労していたと回答した人639人

両立のために使用したツール、支援

- 苦勞した人でも何の支援も使わなかった人が35%。休みを申請するための診断書を使う人は多い一方、職場での両立に向けた合理的配慮の面談、主治医による意見書など、必要な措置がまだまだ活用できていない状況。

治療と仕事の両立のために使った支援策



対象：がんと診断されたとき就労していたと回答した人639人

苦勞したこと（自由回答／全194件の声から一部抜粋）

社内制度

- 就労規則を見せてもらえなかった。（治療中・卵巣がん・50代・正社員）
- 制度や前例がないことで良かった面もあるが、未経験のことでどうすれば仕事を続けられるのか、体調もどうなるのかわからない中、自分で希望して開拓しなければならなかった。（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- 休職は月単位のため、体調が悪いのをおして出勤せざるを得なかった。（治療中・皮膚がん・50代男性・正社員）
- 有休以外の特別休暇はあったが、休職制度がなかったのでまとまった休みは取りづらかった。特別休があるだけ有り難いが、有休も使い切り、休暇は欠勤扱いになった。非正規にも休職制度がほしい。（治療中・乳がん・50代女性）
- 上司にいつ退職するのか？と言われたり、傷病休暇は治る見込みがある人が利用出来る制度だと言われた。復帰支援プログラム自体が無く、現在私が会社と交渉しながら、働き方改革をしている最中である。（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- 派遣社員のため、体調による業務内容の変更や配置変換ができない。フルで今までのように働くか休むかの二択で、会社側からの配慮もなかった。（治療中・子宮体がん・40代女性・派遣社員）
- 入院に伴う欠勤について傷病手当申請が出来ることを派遣会社担当から教えてもらえず、自身も調べられていなかったため、有給休暇を使用し傷病手当申請出来なかった。（治療中・乳がん・50代女性・派遣社員）
- **元の部署を空けて待つから治療を頑張りなさいと励まされるも、戻ってみると既に席は無かった。**（治療中・乳がん・50代女性）
- 休憩したいとき言い出しにくかったり、適切な休憩場所がなく都度自分で調整しなければならなかった。（治療中・胃がん・40代男性・正社員）

苦勞したこと（自由回答／全194件の声から一部抜粋）

社内風土

- カミングアウトを止められた。（治療中・肺がん・50代女性・正社員）
- 病気を上司に報告した時に、病気が治るまで仕事を辞めた方が良いのではと言われた。心配しての声がけだったかもしれないが、がんと就労支援は世の中では理解されていないのだと思った。術後、薬物療法中特定の業務から外してもらえる様をお願いしたらボーナス査定や**今後の昇進への影響を了承する様**に言われた。（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- 上司に勝手に病気を公表された。がん＝死と考える人、自分の不注意でがんになったと思っている人、検査結果を毎回聞いてくる無神経な人などがいて対応に困った。気が動転していて、病気を職場の誰にどこまで話せばいいのか判断できなかった。（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- 上司の許可のもと職場でカミングアウト（メール）したが、上司にクレームが殺到。「病気の話は聞きたくない」「なぜあのようなメールを許可したのか」「嫌な気分になる」など。「がん＝死んでしまう人」「がん＝隠しておく病気」というイメージが強いせいではないか。。（治療中・乳がん・50代女性・正社員）
- 知らせていない上司から連絡がきて不快だったため、人事担当役員に相談した（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- **過度な心配から仕事量を減らされた。**（治療中・乳がん・50代女性・正社員）
- 限られた人にしかがんと伝えていないので体調に無理をすることがある。どこまで我慢するか自分自身の戦いでもある（治療中・乳がん・40代女性・正社員）

苦勞したこと（自由回答／全194件の声から一部抜粋）

就職活動・雇用形態移行

- 手術で二ヶ月休んだら退職を促された。職務内容から両立は難しいと思い退職した。（治療中・結腸がん・40代女性・退職）
- 退院後、次年度の任用はないと告げられ多大な精神的ショックを受けた。談判したが適切な対応は受けていない。（治療中・乳がん・60代女性・任期雇用からパートアルバイトへ転職）
- 診断時の職場が休職明けの話し合いで病気の理解、考慮がなく退職に繋がった。配慮があれば辞めずに済んだと思う。（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- 就職活動で病気を言うか迷っている。カミングアウトしても理解を得られるか不安。（治療中・白血病・30代女性・就職活動中）
- 就職活動中、病気の事を先方に伝えると言葉を濁された（治療中・乳がん・40代）
- 就職活動中だったので、応募して良いものか、自分がどの程度働けるのかなど自分自身がわからないことだらけ。（治療中・乳がん・40代女性・転職しパート・アルバイトとして就労中）

身体的・精神的 疲労

- 疲れやすくなり、仕事を能動的に引き受けられなくなった。治療前と同じパフォーマンスを期待されるが、体力や頭の回転が追い付かず認識の乖離に疲弊している（治療中・乳がん・30代女性・正社員）
- 周囲に迷惑をかけているのではないか、自分の業務クオリティが低下しているのではないか、という不安や焦燥感との葛藤。（治療中・乳がん・40代女性・正社員）
- 環境というより、副作用対策をしながらの仕事に苦勞した（治療中・結腸がん・50代女性・フリーランス）
- 体力的にきつかった（治療中・乳がん・30代女性・正社員）

企業・事業所を超えた『働く世代への啓発活動』が急務 社内・上司の理解が患者さんサポートに直結！

- 患者体験調査（※3）だけではなく、**企業内で起きていることを見える化（様々な就労実態による課題の見える化）**するための職域における**従業員、経営者層に対する現状調査**を実施することを求める
- 企業や事業所はその規模にこだわらず、努力の域を超えて従業員のヘルスリテラシーをあげ、がん治療と仕事の両立に対し、り患者の自発的なキャリア形成も視野に入れ職場の制度・風土作りにより一層取り組むことを求める。
 - ✓ 大企業、中小企業関係なく、相談される機会の多い**上司・管理職の知識・認識不足による企業内の問題が根強いことを認め**、相談対応のばらつきをなくすことが就労継続に極めて重要（正規雇用でも非正規雇用でも）
- **人生100年時代、継続就労ために必要なスキルの一つ**として、がんの知識と両立支援制度・支援窓口の周知を、罹患前に実施する大人のがん教育を、**職域を超えて提供する**幅広い枠組みを求める。
 - ✓ 生涯で2人に1人がなり、うち3人に1人が現役世代である。がん罹患者のうち44%が就労している（※3）現状を加味し、今後は医療者、人事、産業保健スタッフ、がん罹患者といった関係者、当事者だけでなく、家族・地域等周囲の継続就労に対する理解協力が得られる環境作りを求める
 - ✓ 非正規雇用、フリーランス・個人事業主など**多様なキャリアの継続就労を支援**するべく既存の検診啓発の枠組みを利活用したり、当該活動をする団体等とも連携し支援体制を強化することを求める

参照資料

引用資料

(※1) 第2期がん対策推進基本計画（平成24年6月） https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/gan_keikaku02.pdf

(※2) 第3期がん対策推進基本計画（平成29年10月） <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000196973.pdf>

(※3) 厚生労働省委託事業 患者体験調査（平成30年度調査）国立がん研究センターがん対策情報センター 調査報告書

https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/health_s/H30_all.pdf

(※4) 労働力調査（2021年次）

https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200531&tstat=00000110001&cycle=7&year=20210&month=0&tclass1=000001040276&tclass2=00001040283&tclass3=000001040284&result_back=1&tclass4val=0

考察における参考資料

・平成30年度産業医学調査研究

<https://www.zsisz.or.jp/investigation/e6d410fd164c451c2c5faf14f66be02bacd6c997.pdf>

・平成25年度メンタルヘルス、私傷病などの治療と職業生活の両立支援に関する調査 労働政策研究・研修機構

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2013/documents/0112.pdf>

・令和3年「労働安全衛生調査」（実態調査）

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/r03-46-50_kekka-gaiyo01.pdf

・令和4年 リスキリングをめぐる内外の状況について リクルートワークス研究所

<https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/000940979.pdf>

参考) アンケート調査概要

この場を借りて、ご協力いただいたがん経験者の方に、心より御礼を申し上げます

<名 称> 【緊急アンケート】 がん対策推進協議会にがんサバイバーの声を届けよう

<目 的> がんサバイバーご本人が感じる「就労支援」に関する声を集め、がん治療と社会生活の両立支援に必要な 社会資源およびそれらを活用できる社会風土の一層の整備へ向けた課題を明らかにすること。

<対象者> がんを経験したご本人（がんサバイバー）

<方 法> インターネット（URL、QRコード）アンケート調査。主催団体によるメールおよびSNSによる案内。および施主体のネットワークを通じたスノーボールサンプリング方式。

<調査期間> 2022年10月19日（木）～10月25日（火）

参考) アンケート調査概要

回答者_基本情報 (N = 753)

Q. 1 性別

	人数	%
女性	586	78%
男性	165	22%
その他	2	0%
TTL	753	100%

Q. 3 診断された年代

	女性	男性	TTL	
10代	2	1	3	0%
20代	14	5	19	3%
30代	84	6	91	12%
40代	251	44	295	39%
50代	207	62	270	36%
60代	26	36	62	8%
70代以上	2	11	13	2%
TTL	586	165	753	100%

Q. 2 お住まいの地域

単位：人

北海道	33	石川県	7	岡山県	6
青森県	3	福井県	3	広島県	16
岩手県	6	山梨県	3	山口県	5
宮城県	13	長野県	10	徳島県	3
秋田県	3	岐阜県	13	香川県	4
山形県	4	静岡県	21	愛媛県	3
福島県	15	愛知県	40	高知県	1
茨城県	13	三重県	13	長崎県	5
栃木県	13	滋賀県	5	福岡県	20
群馬県	6	京都府	11	佐賀県	1
埼玉県	51	大阪府	43	熊本県	0
千葉県	50	兵庫県	26	大分県	2
東京都	155	奈良県	8	宮崎県	3
神奈川県	84	和歌山県	2	鹿児島県	3
新潟県	9	鳥取県	4	沖縄県	2
富山県	3	島根県	7	海外	2

参考) アンケート調査概要

回答者_基本情報 (N = 753)

Q.4 ご経験されたがんについて

単位：人

乳がん	344	口腔がん・咽頭がん	12
その他	67	大腸がん	11
肺がん	42	すい臓がん	11
卵巣がん	39	前立腺がん	10
子宮頸がん・体がん	33	腎・尿路がん	9
白血病	30	膀胱がん	8
胃がん	24	肝臓がん	7
結腸がん	24	甲状腺がん	5
悪性リンパ腫	20	多発性骨髄腫	4
直腸がん	17	胆嚢・胆管がん	3
食道がん	15	皮膚がん	2
脳・中枢神経系	15	答えたくない	1